



○令和4年度 第3回理事会を開催

11月25日、都漁連水産会館において、理事会を開催。「上半期仮決算」など3議案が可決。販売事業は、新規需要に対する販売多様化の一環として取り組んだ加工が順調に推移。コロナウイルス感染症の影響も徐々に緩和され、一時期の需要低迷から若干の回復傾向。報告事項は、海外販路開拓ほか4件。

○東京産水産物の販路開拓への取組を実施

2か国と豊洲市場でイベントを開催。詳細は以下のQRコードから読み取り可能



都漁連ホームページ <お知らせ参照>

- ・東京産水産物の販路開拓への取組
- ・令和5年度都予算編成に対する要望
- ・検討部会における関会長の意見表明

○令和4年度 第2回天草入札会を開催

11月17日、水産物流通センターにおいて、入札業者様7社と伊豆大島漁協理事ほか、生産者様を迎え、第2回テングサ入札会を開催。最高落札価格は、テングサの入荷量減少などを反映し、銘柄-等級別で昨年同回を「3,000～5,200円/本」程度上回りました。入荷状況は下表のとおり。

産地	本数
泉津	71
岡田	54
波浮港	122
元町	2
にいじま	7
三宅	4
計	260

銘柄	等級	本数
天晒(荒)	一等	116
天晒(荒)	上-一等	2
天赤(荒)	一等	47
天赤	一等	4
ほか	一等	91

○キンメダイ資源管理に係る浜回りを実施

水産庁と水産研究・教育機構 水産資源研究所が昨年度と同様に、島を訪問し漁業者へキンメダイ資源の現状を説明。漁業者からは島周辺漁場で操業する内地漁業者などの中には地元ルールに理解を示さない者も少なくないため、キンメダイが小型化していることや、TAC制度開始に伴って、現状よりも少ない漁獲量が配分割当された場合、収入

減少への影響が大きいと、漁獲量管理には反対、イルカの食害などを意見。

◆開催日時：

- ・10月26日 新島、10月28日 神津島、
- ・11月2日 大島、11月14日 三宅島、
- ・12月7日 八丈島

○水産政策審議会資源管理分科会 第10回資源管理手法検討部会で関会長が意見表明

水産庁は12月20日、キンメダイ太平洋系群の最大持続生産量(MSY)ベースによる漁獲可能量(TAC)管理の導入について、一都三県の漁業関係者から意見を聞く検討部会を千代田区内で開催。参加者からは資源評価の不十分さを指摘したほか、「早い者勝ちで若齢魚の多獲が進む」などの意見が相次いだ。関会長からは、磯もの資源が減少し、キンメダイ漁業への依存が高まる島の漁業現状や漁獲量の管理に強い反対の声があることを意見。また、島周辺漁場の資源を守るためには公的規制が不可欠であること、TAC管理導入に伴い漁協や都漁連の経営が悪化すること、後継者確保の課題などを表明。

本部会での意見を踏まえ、来年度複数回開催されるステークホルダー会合(資源管理基本方針に関する検討会)での議論に繋がる。

○令和5年度税制改正の大綱が閣議決定

12月23日、消費税インボイス制度の円滑な実施に向けた所要の措置が決定。参考資料は、以下のQRコードから読み取り可能(P55～P57)。ポイントは黒枠①～②。都漁連は全漁連、芝税務署への質問等を実施。疑問点等は組合で整理の上、指導室へ連絡願います。



ポイント

- ① 免税事業者がインボイス発行事業者となった場合の納税額の軽減(納税負担の軽減)
- ② 手数料等の少額取引について、帳簿記載のみで仕入税額控除が6年間可能(事務軽減策)

○都漁連による都補助事業の実施状況報告

- ・漁業用燃油に係る運搬船運賃補助（事業名：島しょ漁業経営支援緊急対策事業）

【目的】都漁連運搬船の運賃を補助することにより、漁業経費の負担を軽減し、操業の安定化を支援

期 間	対象漁協(数)	事業量(KL)	事業費(千円)	補助率
4月～11月	6	2,033	33,590	10/10

- ・セーフティーネット構築事業に係る助成（事業名：燃油高騰緊急対策事業）

【目的】セーフティーネット構築事業で支払われる補填金のうち、漁業者積立金取崩額の一部を助成することにより、漁業者の事業参加を促して、漁家経営の安定化を支援

期 間	対象漁協(数)	事業量(KL)	事業費(千円)	補助率
4月～9月	8	1,117	11,310	4/5

- ・人材育成長期研修（漁業経営体育成研修）

【目的】新規就業者の育成に取り組む漁業者に対し、指導謝金などを補助することにより、受入・育成に係る経費負担を軽減して、漁業者数の維持増大を支援

期 間	対象漁協(数)	研修生(人数)	途中終了者(数)	継続率(%)
4月～9月	5	13	2	84.6

○流通センター取扱実績報告（10～12月期）

概 況：今期取扱数量は荒天の影響により、前年同期の7割弱となりました。また、取扱単価はキンメダイ等の高い需要も影響し、昨年同期と比べて一部例外を除き100～260円/kg程度上昇、高水準で推移した。

魚種	10～12月			10月			11月			12月		
	数量 (トン)	金額 (百万円) (税込)	単価 (円) (税込)									
キンメダイ	60.0	116.9	1,948	23.0	44.1	1,917	26.2	48.8	1,862	10.8	24.0	2,222
メダイ	2.1	1.6	756	1.6	1.2	750	0.4	0.3	750	0.1	0.1	1,000
キハダ	7.0	8.8	1,257	3.1	3.3	1,064	1.9	2.4	1,263	2.0	3.1	1,550
オナガ	8.9	14.5	1,629	2.9	4.6	1,586	2.9	4.6	1,586	3.1	5.3	1,709
ムツ	0.4	0.9	2,571	0.1	0.2	4,000	0.2	0.4	2,000	0.1	0.3	3,000
その他	66.5	63.9	960	23.4	16.0	683	28.0	21.5	767	15.1	26.4	1,748
合 計	144.8	206.6		54.1	69.4		59.6	78.0		31.2	59.2	

《編集・発行》 都漁連指導室

TEL 03-3458-4236

e-mail shidoo@tokyo-gyorenn.or.jp